



多摩ブルー・グリーン倶楽部

2022年度例会・事業報告書

日時 2022年12月14日(水) 午後2時～

会場 パレスホテル立川 4階ローズルーム

目 次

1. 2022 年度例会報告

- (1) 第 31 回例会報告
- (2) 第 32 回例会報告

2. 2022 年度事業報告

2022 年度事業テーマ

- (1) プラットフォーム「まなびばたま」
- (2) 会報誌『たまの力』発行 (Vol.6)
- (3) 多摩大学「学生による会員企業レポート(2 期)」
- (4) 多摩地区大学就職研究会「インターンシッププログラム」
- (5) 従業員向けセミナー
- (6) 多摩大学「事業構想論」
- (7) 多摩大学「多摩学」
- (8) 法政大学「中小企業論」
- (9) 多摩未来奨学金

3. 2021 年度事業報告

- (1) 日本工学院八王子専門学校「多摩地域ものづくり企業交流会」
- (2) 会報誌『たまの力』Vol.5

2022 年度事業テーマ

事 業 連 携

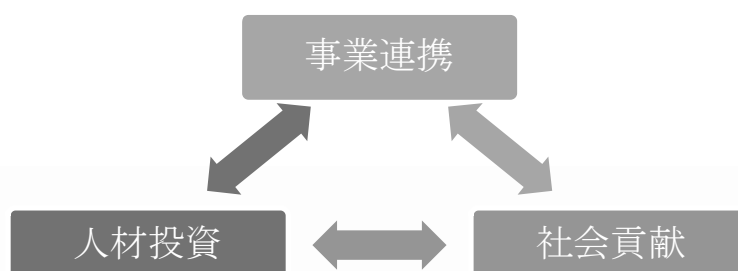
倶楽部事業による機会・場の創出を通じて、地域経済を牽引していく企業として他のモデルとなるような先駆的な取り組みを支援します

人 材 投 資

会員企業の多くが経営課題としている、人材の「採用」「育成」「福利厚生」への取り組みを支援します

社 会 貢 献

多摩地域の中核企業としての社会貢献への取り組みを支援します



第31回例会報告

— 基調講演 —

結束力を強めるブランディング戦略 ～Well-being経営と企業の存在意義～

第31回例会では、第一部の基調講演として、株式会社生活の木 代表取締役社長の重永忠氏に『結束力を強めるブランディング戦略』をテーマにお話しいただきました。

講演内容

本日は、コロナ禍の2年間で私が得た経験や教訓、そして見てきたこれからの方向性について、一事例としてお話ししたいと思います。

弊社は、世界52か国からドライハーブの原材料を直輸入し、ハーブ・アロマテラピー製品の製造・企画・開発・販売まで一貫流通体制で行っています。従業員は700名、直営店110、提携店が100あり、スクールやサロン経営なども含めて、ハーブやアロマ普及のためのあらゆることを行う会社です。

私たちの使命は「自然の恵を使って、人々をどれだけWell-being(良い状態=幸福、健康)にするか」ということです。この「Well-being」という考え方は、実は2019年から、リブランディングのため経営目標として提唱していたことでした。奇しくもコロナ禍で「心身の健康」が世の関心事になり、時代と我々の提唱することのピントが合ったと感じます。

昭和はモノ志向の時代で、豊かさとは量的拡大・規模的拡大でした。企業論理も、物量や生産量を高めることが「豊かさ」だったと思います。しかし最近、豊かさや幸せのものさしは、GDP(国内総生産)からGDW(国内総合充実)へと完全に変わってきています。モノや情報がこれだけあふれる中で、生活の質や心の充実が価値になってきているのを、自分の事業を通じて痛感します。

私は、対お客さまはもちろんのこと、社員、会社の在り方、あらゆることにWell-beingが行き渡るような経営を目標・課題としています。そのためにもまず「社員のWell-being」を最優先事項として宣言しました。

コロナ第一波の頃、弊社の直営店110店舗がクローズ、売上の7割がなくなり、従業員も休みを余儀なくされました。そんな中で経営者として「雇用は絶対補償」「休業中も基本給は100%支給」を全社員に約束しました。さらに、「健康な心身を保つ」「業務再



開後にどうお客さまを喜ばせるか考えておく」、この2つを休養中のミッションとしました。時間はたっぷりあったので、社員一人ひとりとオンラインで面談を行い、その結果、「コロナ禍でも自分は仕事でどう社会に貢献するのかと考える」という前向きなベクトルが社内に出てきたと感じます。

弊社の組織図はピラミッド型ではなく、それぞれのセクションの力を発揮しながら部門横断的に連携していくサークル型になっています。「Well-beingな組織」という理想を実現するぞ!という気持ちの表れでもあります。オープンな組織づくりのおかげで、新しい提案が次々にどこからでも出てくる土壌ができ、これも弊社のケイパビリティ・強みの一つになっています。コロナ禍では、こういった自分たちのケイパビリティを経営方針やブランディングなどでもう一度明確にし、一貫性と連動性をもって全社員を一つにするように意識しました。

コロナ禍で感じたのは、10年に1度は大変なことが起きるが、実は「大掃除のチャンス」でもあるということ。10年単位で世の中は変わり、これから必要とされる価値と企業が現実に行っていることの間乖離が生まれます。動けない時期には、これまでの不要なものを一掃したらいいのです。

コロナ禍でWell-beingというメッセージは急速に浸透しました。弊社は、これからの重点戦略として、「Well-beingのプラットフォームになること」を掲げ、さらに進んでいきます。



講師
プロフィール
Lecturer Profile

重永 忠 氏 [株式会社生活の木 代表取締役社長]

1961年、東京都生まれ。東京経済大学卒業後、大手流通企業に入社。経済産業省中小企業大学校経営コースを経て、父が経営する陶器の製造販売会社に入社。後にハーブと出会い、新事業として拡大。1994年から代表取締役社長に。2009年には、経営コンサルティング会社リンクアンドモチベーションが実施した社員満足度調査で、東日本エリア1,100社中トップに輝き、注目を集めた。著書に『まかせる経営～ノルマをなくせば会社は伸びる』(PHP研究所)。

第31回例会報告

ーパネルディスカッションー

人を中心とした経営 ～ケイパビリティ・企業の組織的な強みについて～

株式会社生活の木 代表取締役社長 重永 忠 氏
 株式会社ヒーロー 代表取締役社長 岩崎高之 氏
 金澤建設株式会社 取締役企画営業部長 金澤大恵 氏

対談内容

司会 まず、パネリストの方々から事業紹介をお願いします。

岩崎社長 弊社はバーベキュー場とキャンプ場の運営会社です。「BBQはエンターテインメント」で、野外で楽しく美味しく、というスタイルを世に広めたいと活動しています。

金澤部長 主な事業は「建設業」ですが、地元小金井のお菓子「黄金井パフ」を残すために異業種承継をし、「菓子工房ビルドルセ」を立ち上げました。私はそのお菓子の製造販売を行う企画営業部に所属しています。

司会 講演で「経営にはケイパビリティが必要」というお話がありました。ケイパビリティを高めるための取り組みと課題について教えてください。

金澤部長 社員・スタッフと共有していることは「常時同じ船に乗っている」ということです。飛行機なら高度何万フィートで情報共有をしなければ落ちてしまいます。部門関係なく「目の前に起こることは全て自分に関係がある」と思って取り組んでほしい」ということです。

岩崎社長 自社の強みは、登山など、さまざまな特殊能力を持つ社員がチームを組み、プロジェクトに関わっている「運営力」です。ケイパビリティを高めるためには、彼らがイキイキと仕事できる環境づくりが私のミッションです。その雰囲気がお客さまにも伝わり、居心地良く幸福感を感じられる空間づくりができれば、と考えています。



重永社長 得意を活かせる会社づくりというのは、私も全く同感です。一人ひとりの得意分野や才能を知ろうとする経営者がいるから、できることですね。

司会 講演で「PDCAからDCAPへ」という話題も出ました。「まず実行」ということについて、どう感じられましたか。

金澤部長 弊社では、「15分程度で新しい企画を決定。翌日には新商品をお店に出す」くらいのスピード感と柔軟性があります。それができるのは「問題が起こっても話し合える」という自信があるからで、その関係性があってこそだと思います。

岩崎社長 私が社員に伝えているのは「縮こまらない」ということです。とりあえずトライ&エラーでやってみて、失敗を次に活かせばよい。上司が面倒見るからちょっと強引でも「やってみな!」と話しています。

重永社長 お二人の話に共通するのは、自分で決めさせる、ということですね。人は、自分が決めたことには責任を持ちますが、他人が決めたことは人のせいになります。「教育」というよりは、「どれだけ決定の経験をさせるか」が成長には大事で、その流れを作るのが経営者の役目だと感じます。

司会 「人を中心とした経営」のために、今後どのような取り組みをしていきたいですか。

金澤部長 「自分が買いたい食品か?」「家族が食べても安全・安心か?」という大前提はぶれることなく、どんな時も「まず社員・スタッフを大事にする」ことを継続していきます。

岩崎社長 弊社には「できた!を増やそう」というコアバリューがあります。失敗してケガするかもしれない、経験したことがない、といった地点から一歩踏み出して、「できた!」を増やしたい。またその経験を、お客さまはもちろん、社員とその家族にも提供できるように心がけたいです。

重永社長 「人中心」とは、とにかく互いに興味・関心を持ちあうことだと思います。仕事とはいえ、私は同じ運命共同体の家族だと思っています。今後も、無理なく、人として自然体で社員と関わっていくつもりです。

第31回例会報告

－ 第19回多摩ブルー・グリーン賞最優秀賞企業2社によるプレゼンテーション －

第19回 多摩ブルー・グリーン賞 技術・製品部門「多摩ブルー賞」最優秀賞
株式会社ティーフォース 代表取締役 坂田 康二 氏

未利用食品の有効活用のための農水産物の瞬間乾燥粉碎システムの開発

農水産物の瞬間乾燥粉碎システムと、その加工に必要な機械「高速気流式乾燥粉碎機(ターボドライヤー)」を自社開発し、2019年より販売開始しました。ターボドライヤーは秒速100~120m程度の高速の竜巻を起こす機構を備え、野菜や果物、魚などの乾燥パウダーを瞬間製造できるのが特徴です。

このパウダーは、例えば、食材に混ぜ込んだり、ふりかけたりと、味付け・色付けとしてあらゆる料理に活用できる可能性を秘めています。

熱劣化がないので、ファイトケミカル自体がもっている機能性と食物繊維の摂取による健康効果も期待できます。現在、日本人が摂取する野菜摂取量の平均は1日に必要とされる350gに満たず、健康のためにはより野菜を摂取する必要があります。パウダーならば大さじ1杯で野菜70g分を手軽に補えます。また、お湯を注ぐだけのスープなど、非常食的な活用法も考えられます。

我々が使命とするソリューションに、未利用野菜の有効活用があります。生産された野菜の1~2割は畑で廃棄されているという事実があります。500万tの1割なら50万t、2割



で100万tです。虫食いや傷などで捨てられてしまう未利用野菜を有価物にし、農業の発展に寄与したいと考えています。これまでに、捨てられていた三番茶の茶葉を水出し専門のお茶パウダーに加工した事例、コロナ禍で余った高級野菜のピーツをパウダーにして活用した事例があります。

ターボドライヤーネットワークの構築を目指し、全国の生産地付近に小型の加工センターを設置して、未利用野菜を活用してパウダーを製造・販売するシステムを整えていければと思います。

第19回 多摩ブルー・グリーン賞 経営部門「多摩グリーン賞」最優秀賞

株式会社エムール 代表取締役 高橋 幸司 氏

眠りで世界の人を元気にするEC経営力

弊社のビジョンは「眠りで世界の人を元気にする」です。この実現のために、ベッド・マットレス・枕などの寝具を提供し「睡眠環境」を整えるEコマース事業と、睡眠に関する情報提供を行い「睡眠生活習慣」の改善をお手伝いするサービス事業、この2つを軸に展開しています。

弊社のECサイトでは現在約2,000アイテムを販売し、30万人のお客さまにご利用いただいています。サイト立ち上げ当時は50アイテム程度しかなく、群馬・埼玉・栃木・浜松・滋賀・京都・九州と、寝具を製造するあちこちの地方の



メーカーと組んで、徐々に規模を拡大してきました。今では、ベビーや高齢者、ペット向けなど顧客層を拡大、アイテムも横展開しています。

2013年からは、正しい睡眠の知識を発信すべく、睡眠研究者と科学的見地に則ったサービス開発も進めてきました。2014年から、アメリカでの販売を始め、その後、カナダ、ヨーロッパへ販路を広げています。国内では競合他社が数千社とありますが、海外になると10社もなく、海外販売事業は大きなチャンスがあります。

新しく創業した会社が地域に認めってもらうのは簡単ではなく、創業5年目からは「東京ヴェルディ」のスポンサーになり、社会貢献活動にも力を入れることで知名度を徐々に上げてきました。また、アスリートに向けた睡眠改善プログラムの提供、多数の大学・企業へのビジネスモデル創出の講演を行い、地域社会への貢献を継続的に行っています。

私自身が多摩地域出身・在住です。会社をより成長させ、多摩地域に起業文化が芽生えるように頑張っていきます。

第32回例会報告

インターンシッププログラム実施報告・参加報告

多摩地区にある19の私立大学、多摩地区大学就職研究会の協力により実施されたインターンシッププログラム。8月中旬～9月中旬の1カ月間、6社の企業において20名の学生がインターンシップを行いました。例会では、3社の企業と6名の学生に、それぞれの立場から実施後の報告をしていただきました。

森田テック株式会社 総務部 辻野桜子 氏

弊社はインターンシップの実施は初でした。従業員の平均年齢が53歳と高齢化が進み、若い世代への技術継承が課題になっており、今回良い機会をいただけて感謝しています。

受け入れた4名のインターン生の応募理由は「社会人とは、企業とは何か知りたい」というものでした。就活学生が重視するのは「会社の雰囲気」「福利厚生」「給与」でしょう。そこで、ホームページに載っている情報だけでは分からない社内の実情を詳しく知ってもらおうとプログラムを構成しました。

実際には、弊社の経営理念や業務など基本情報を伝え、次に、直近5年間の昇給・賞与、残業実績値、有給休暇の取得状況などのデータを表にして紹介しました。福利厚生については、実際にこの制度がどう使われている

か、育児休業や介護休業を取得した今年度の事例を挙げながら詳しく説明しました。いずれも、学生からはなかなか聞きづらいが、気になる部分だと思います。

3日間に分け、営業、電気設計、製造など各部署の担当12名から、業務内容のプレゼンも行いました。それぞれの仕事への責任感やお客さまへの想いを感じることができ、社員にとっても改めて自社に誇りをもてるいい時間でした。インターン生からは後日お礼のメールをもらい、大きな収穫を感じたインターンシップとなりました。



エム・ケー株式会社 常務取締役 小林久恵 氏

日野市に本社を構え、まちづくりを行なっている会社です。「小さな企業」「人間力の塊、ヒューマン企業」「オンリーワン企業」「農耕型経営理念」「100年企業を目指す」。これは弊社を象徴する5つのキーワードですが、インターン生には初日にこのキーワードを伝え、「最終日に、弊社に最も合うキーワードを、理由とともに発表する」という課題を出しました。

プログラムは、まず座学を行い、その後、実際に私たちが手がけた開発現場の視察をしました。2日は「有効活用」をテーマに、ヘッドリース（長期一括借上げ）案件を見て回りました。最終日には、学習成果として社内発表をしてもらいました。

弊社がインターンシップを行うに当たって気をつけているのは、インターン生にリアルを体験してもらうことです。また、最終日の発表は必ず全社員

に聞いてもらいます。学生が弊社で学んだことを改めて聞くことで、社内の理解を深めることができます。感動を共有できる場で、発表する側にとっても聞く側にとっても大きな刺激になりました。

《参加学生の声》

エム・ケーが手がける社会貢献について発表することで、事業内容を深く理解できた2日間でした。自分の地元である多摩地域の良い企業を知るきっかけになりました。インターンシップに参加したことで、就職活動に対する姿勢が前向きになりました。「入社がゴールではない」と気づかされ、自分が目指す将来について考え直す良い機会にもなりました。



株式会社シーズプレイス 取締役副社長 清野智美 氏

弊社は6年目になりますが、創業当時から「企業理解」や「男女共同参画啓発」を目的にインターン生を受け入れています。今回は10日間、4名の学生に参加してもらいました。

プログラムの前半では、最初に社長からオリエンテーション、その後、起業サポート施設や保育園、男女共同参画センター、児童発達支援スクールなど、6事業所に向いて実務を行いました。

後半は、学生同士で協力して、課題の制作と発表をしてもらうようになっています。今回は「アンコンシャス・バイアス」について考えてもらいました。

インターンでは、必ずスタッフや社員と同じ仕事を体験してもらいます。また、インプットだけでなくアウトプットも必ずしてもらいます。今回の課題発表は非常に優秀で、内容に社員も感動して涙を流して喜びました。素早くアンケートを作り、たった1日で200名の声を集めた若い学生さんたちの行動

力には、特に感銘を受けました。良い機会をありがとうございました。

《参加学生の声》

今回のインターンシップで初めて「アンコンシャス・バイアス」を知りました。無意識の思い込み気づかされ、他人も自分も大切にしながら生きたいと考えさせられました。

児童福祉施設の実務では、地域や教育との連携が分かりました。また、アクションを起こすためのさまざまな手段や、笑顔が地域に届けられる喜びを学ぶことができました。大変有意義な時間でした。



総括 多摩地区大学就職研究会 東京経済大学キャリアセンター長 齋藤隆大 氏

現在のインターンシップは、オンラインだったり半日だったり、学生が満足する企画が少ない印象の中、現場の社員と触れ合える充実のプログラムを実施していただき、参加学生も有益な体験ができたと感じています。インターンシップで、企業イメージだけでなく、就職への考え方も大きく変えて

いただきました。

今後とも、多摩地区の大学と企業が、学生を含めて連携しながら、接点を持てるような企画を継続していただけると嬉しく思います。

第32回例会報告

高校生向け「1分動画プロジェクト」・高校職員による企業見学会実施報告

高校向けプロジェクトについて

認定特定非営利活動法人育て上げネット 執行役員 井村良英 氏

高校生は職場の「雰囲気」を知った上で就職先を選びたいという希望を持っています。しかし、学校の進路室にたくさん送られてくる求人票や資料の中から、高校生が自分の力だけで自分にあった企業と出会うということは困難な状況です。

そこで「高校生に地元の良い会社のことを就活前に知ってもらいたい」と始めたのが「1分動画プロジェクト」です。企業の「雰囲気」が分かる1分動画を作り、進路室で流していたところ、今年度は数人の高校生が「この会社に就職したい!」と企業調べを始めました。1分動画を見て、会社のInstagramなどのSNSをチェックし、ホームページやパンフレットを見た上で職場見学に行き決めたそうです。高校生の情報取得のために、1分動画は非常に効果的だと確信しました。

また、高校の先生と地域の良い企業をつなげよう、と行なったのが「高校職員による企業見学会」です。実際に企業を見て、「真面目で一生懸命なあの子にはこの会社がある」という声も先生方からいただきました。

砂川高校、羽村高校、秋留台高校の3校だけでも100名程度の高校生が多摩地域の企業に就職します。今後もこの企画を続けていきたいと思っています。



ニシハラ理工株式会社 取締役経営企画部長 西原昌宏 氏

弊社は毎年、高校生が新入社員として入ってきますが、その裏には採用担当の「大量の求人票の束の中から選んでもらうためには、どう差別化すればいい?」という悩みがあります。コロナ禍から採用活動にも変化があり、今回いただいた「PR動画」という提案は突破口になると考えました。

動画は、新入社員と弊社担当の2人で試行錯誤しながら制作してもらいました。1分間の工場見学のような構成で作りました。浅く広い内容になった、中小企業の雰囲気の良さや強みが盛り込めなかった、出演者に親しみやすさが足りなかったなど、内容に反省点は多々ありますが、実際に動画を見た高校生から、めっきと化学の授業の関連性に気づく声が聞けたりと、多少なりとも弊社を身近に感じてもらえたと思います。

今後は、新入社員や若手社員の意見を聞きながら、「入社前に知りたかったこと」や「気になる会社のポイント」など、テーマを絞って構成したら良いと感じました。高校生だけでなく、見る人にとって親しみやすい内容や媒体を使うことで、大学生・一般向けにもやっていける試みだと思うので、うまく活用して続けていければと思います。



●ニシハラ理工株式会社 1分動画「どんな高校生と働きたいですか?」
(育て上げネット チャンネルより)

<https://youtu.be/fGGWBj32L1Q>



若手社員がインタビュー形式で、社内の様子を明るく紹介している

株式会社オギノパン 代表取締役 荻野隆介 氏 本社工場直売店 副店長 田中晴奈 氏

弊社は、多摩エリアに隣接する相模原市でパンの小売販売業を営んでいますが、求人を出したときのリアクションにはいつも非常に苦労しています。今回のプロジェクト参加の経緯は、高校求人を頑張っていきたい、と考えていたため、高卒の求人に特化した動画に着手しました。

動画を載せる媒体も、高卒求人向けのサイトだけではなく、YouTube、Instagram、TikTokにも公開しようと考えました。若い世代の社員に任せて、動画制作・発信してもらいました。制作側の想いとしては、「オギノパンの良さについて知ってもらいたい」という気持ちと同時に、「高卒就職を応援したい!」という気持ちもあつたようです。多くのSNSを活用することで、

就職活動以外の一般のお客さまに向けても宣伝効果も生まれる、といろいろな楽しいショートムービーを考えてくれました。

実際に、YouTubeの動画を見て、沖縄県に住む高校生から応募が来ました。今までにない経路からの応募に喜んでいますが、これを機に、高校生以外にもたくさんの方に動画を見てもらって、客数の増加にもつなげられればと思っています。



●オギノパン チャンネル (YouTube)

<https://www.youtube.com/channel/UCw-mYmMa6sGqRumDPFbUKmQ>



社内の雰囲気がよく分かる、高校生にも親しみやすい楽しいムービーが並ぶ

第32回例会報告

— 基調講演 —

深く考えず、やりたい事はさっさと始めよう、 人生は短い

第32回例会 第3部の講演では、株式会社ミチコーポレーション代表取締役・冒険起業家の植田紘栄志氏に『深く考えず、やりたい事はさっさと始めよう、人生は短い』をテーマにお話しいただきました。

講演内容

広島県の芸北という地で「ぞうさんカフェ」を経営しています。芸北は過疎地で、人もいない、駅もインターチェンジがありません。そんな田舎で分かったのは「発信しないと誰も来ない」ということ。そこで、自分でメディアを作って発信すべく「ぞうさん出版」を立ち上げました。自分が執筆した本がベストセラーになって映画化されれば、ご当地巡りの人が来るんじゃないかという、実に単純な発想からです。



執筆した『冒険起業家 ゾウのウンチが世界を変える。』という本は、私のスリランカでの事業をめぐる自伝です。「200ページ以上の本は売れない」と言われる中、私が書いた本は小さな字で400ページ。もともと出版業界の人間ではなかったので常識を知らず、初出版でたくさんミスもしましたが、業界的には驚かれました。書店も面白がって派手に展開してくれて、業界誌やテレビ番組でも特集が組まれ、ベストセラーランキング3位にまでなりました。

あらすじは、道を聞かれたスリランカ人にお金を貸してあげたら、何年か後にスリランカに招待され、誤解や偶然も重なって、かの地でペットボトル再生事業の会社を立ち上げることになるという、浦島太郎のような話です。

ペットボトル再生事業を立ち上げてからは、まずゴミの分別を進めようと、法整備と収集運搬システムを整えました。文部大臣に掛けあって、子供たちに「エコ教育」、今で言うところの「SDGs」教育も進めました。なげなしの資本金で作った工場がなんとかスタートした頃、野良ゾウが工場の壁を破壊するという事件が起こりました。ゾウは暴れ出すと、人間を踏みつけるものすごく怖い動物です。スタップも怖がって来なくなり、全く工場が稼働しなくなりました。

困った時にヒントをくれたのは、子供たちでした。ゴミ分別の啓蒙活動の一環で絵画展を行った時に、ゾウのウンチでできた再生紙を使いました。日本に絵画展を持ち込むと、絵よりも紙が話題になったのです。ここから「ぞうさんペーパー」のアイデアを得て、

ビジネスを軌道に乗せることができました。BBCのワールドチャレンジというビジネスモデルのコンテストではグランプリ、ぞうさんペーパーで作った絵本は、UNESCOアジア文化センター賞をいただきました。子供たちへ地球環境について話をしていく中で、自分のビジネスマンとしての「好み」がはっきりしてきました。とにかくこだわりは「自然素材」です。

私の人生を大きく変えたのが、2011年の東日本大震災です。「活断層がなく、食料自給率が高い場所で子育てをしたい」と辿り着いたのが、今住んでいる芸北でした。親戚の芸北の人たちが過疎で困っているのを見て、私はビジネスで何か貢献できないかと考えました。また、芸北の過疎は日本列島全体の問題だ、と感じました。何か面白いビジネスができれば、日本の過疎地を活性化できるのではと考えています。

今は、ぞうさんカフェの他にも、農業・狩猟体験ビジネス、保存食ビジネスなど、思いついたら即実行し、さまざまなメディアで発信しています。手作業の手間がかかる部分は福祉施設にお願いし、新たな雇用創出も意識しています。

私が本に込めたメッセージは、「どんなビジネスも世の中が平和でないとできない」ということ。スリランカでの私の運転手の弟は、賃金がいいからと入隊し、戦争で亡くなりました。弟も雇ってあげられれば、とその時大変後悔しました。戦争に行かなくても食べていける雇用を作るのがビジネスマンの目指すところだと思っています。スリランカで、大義があるビジネス、儲かるほど誰かがハッピーになれるビジネスは素晴らしい、と考えるようになりました。これからもこの信念はブレさせることなく、冒険を続けていきます。



講師
プロフィール
Lecturer Profile

植田 紘栄志 氏 [株式会社ミチコーポレーション代表取締役・冒険起業家]

1971年岐阜県出身。1997年、株式会社ミチコーポレーションを設立。スリランカにてペットボトルリサイクル事業やゾウの排泄物の再生紙「ぞうさんペーパー」など、多くの事業を手掛ける。2011年より広島県北広島町芸北に移住、カフェや出版事業などさまざまな地域活性化ビジネスを精力的に行う。



2. 2022 年度事業

(1) プラットフォーム「まなびばたま」 <事業連携>

内 容 会員や外部機関等との連携事業を通じて、会員の経営課題および地域の社会課題の解決に向けた緩やかなネットワーク形成を図ります。

1. 高校職員による企業見学会		
実施日	2022年5月24日(火)、7月4日(月)、7月5日(火)	
内 容	各社にて事業説明、質疑応答、社内見学会を実施しました。	
参加会員	株式会社オギノパン	金澤建設株式会社
	東京システム運輸ホールディングス株式会社	株式会社ツインキールズ
	ニシハラ理工株式会社	株式会社 NISSYO
	株式会社日本フードエコロジーセンター	武州工業株式会社
参加校	東京都立砂川高等学校	NHK 学園高等学校

2. 高校生向け「1分動画プロジェクト」		
実施日	2022年6月17日(金)～	
内 容	事業説明会の実施。各社にて制作した動画を、認定 NPO 法人育て上げネットを通じて、多摩地域の約 20 校の就職希望の生徒に紹介しました。	
参加会員	株式会社オギノパン	成友興業株式会社
	ニシハラ理工株式会社	株式会社 NISSYO (実施協力)
	認定 NPO 法人育て上げネット(実施協力)	

(2) 会報誌『たまの力』Vol.6 <事業連携>

発 行 2022年9月

掲載会員	トップリーダーに聞く	三鷹光器株式会社 代表取締役社長 中村 勝重氏
	新事業にチャレンジ	株式会社グローバルエージェンツ 代表取締役社長 山崎 剛氏
	事業承継を経験して	新協電子株式会社 代表取締役社長 中西 英樹氏
	グローバル企業の最前線	日本分析工業株式会社 代表取締役社長 大栗 直毅氏
	地域貢献	株式会社エマリコくにたち 代表取締役 菱沼 勇介氏



(3)多摩大学「学生による会員企業レポート(2期)」＜事業連携＞

発行日 2022年9月14日(水)、10月26日(水)

掲載会員 (第1ターム)

株式会社ウオールナット

エム・ケー株式会社

有限会社小沢製作所

武州工業株式会社

(第2ターム)

株式会社アイエムエス

株式会社榎本調剤薬局

金澤建設株式会社

株式会社中央発明研究所

(4)多摩地区大学就職研究会「インターンシッププログラム」＜人材投資＞

実施日 2022年6月17日(金)～

内容 6月より参加学生を募集し、インターンシップを8月中旬より実施しました。
2022年10月28日(金)に実施した第32回例会にて報告会を開催しました。

参加会員 株式会社ウオールナット

金澤建設株式会社

成友興業株式会社

株式会社テラダイ

森田テック株式会社

エム・ケー株式会社

株式会社シーズプレイス

たなべ物産株式会社

東成エレクトロビーム株式会社

参加学生 20名

(5)従業員向けセミナー＜人材投資＞

実施日 2022年6月28日(火) 「モチベーションが高まる自己分析」

2021年7月25日(月) 「自他を高めるコミュニケーション」

講師 株式会社ポールスターコミュニケーションズ 代表取締役 北 宏志氏

参加会員 6会員/22名

(6)多摩大学「事業構想論」＜社会貢献＞

実施日 2022年7月1日(金) 金澤建設株式会社 代表取締役社長 金澤 貴史氏

取締役企画営業部長 金澤 大恵氏

2022年7月8日(金) 東成エレクトロビーム株式会社 代表取締役 上野 邦香氏

会場 多摩大学 多摩キャンパス 001教室

担当教員 多摩大学 経営情報学部 教授 松本 祐一氏

受講学生 経営情報学部 主に2年生



(7) 多摩大学「多摩学」＜社会貢献＞

実 施 日 2022年10月19日(水) 東京システム運輸ホールディングス株式会社
代表取締役社長 細川 武紀氏
2022年11月2日(水) 有限会社ボヌール・ナナ 代表取締役 遠山 大樹氏

会 場 多摩大学 多摩キャンパス 001教室

担 当 教 員 多摩大学 経営情報学部 教授 長島 剛氏

受 講 学 生 経営情報学部1年生

(8) 法政大学「中小企業論」＜社会貢献＞

実 施 日 2022年5月30日(月) 株式会社VRC 代表取締役社長 謝 英弟氏
2022年6月6日(月) 株式会社イズミ 取締役環境事業部長 清水 弘幸氏
2022年6月13日(月) 株式会社キャリア・マム 代表取締役 堤 香苗氏
2022年6月20日(月) 東成エレクトロビーム株式会社 代表取締役 上野 邦香氏
2022年6月27日(月) エム・ケー株式会社 常務取締役 小林 久恵氏
2022年7月4日(月) 株式会社榎本調剤薬局 相談役 越阪部 修一氏
2022年7月11日(月) 金澤建設株式会社 代表取締役社長 金澤 貴史氏
取締役企画営業部長 金澤 大恵氏

会 場 法政大学 多摩キャンパス 5号館(社会学部B棟)202教室

担 当 教 員 法政大学 社会学部 准教授 糸久 正人氏

受 講 学 生 社会学部 1~4年生

(9) 多摩未来奨学金 ＜社会貢献＞

目 的 多摩地域の発展に資する人材の育成を願い、成績優秀な学生のうち経済的な理由により修学が困難な学生の勉学を後押しする給付型の奨学金制度を通じて、社会貢献の取組みを支援します。

内 容 会員企業に会報誌送付とあわせて郵送にてご案内しました。

3. 2021年度事業報告

(1) 日本工学院八王子専門学校 「多摩地域ものづくり企業交流会」 <人材・福利厚生>

実施日 2022年3月9日(水)

会場 日本工学院八王子専門学校 講義棟C 2・3階

参加会員	株式会社アトム精密	株式会社ウオールナット
(五十音順)	京西テクノス株式会社	株式会社コボリン
	株式会社栄铸造所	成友興業株式会社
	多摩冶金株式会社	超音波工業株式会社
	東成エレクトロビーム株式会社	ニシハラ理工株式会社
	株式会社日本電力サービス	マイクロテック・ラボラトリー株式会社
	森田テック株式会社	

参加学生 テクノロジーカレッジ ロボット科、電子・電気科、機械設計科 1年生

(2) 会報誌『たまの力』Vol.5 <新事業・相互理解>

発行 2022年3月

掲載会員	トップリーダーに聞く	成友興業株式会社 代表取締役社長 細沼 順人氏
	新事業にチャレンジ	株式会社テラダイ 代表取締役社長 寺園 智樹氏
	事業承継を経験して	あき電器株式会社 代表取締役 稲垣 美佐子氏
	グローバル企業の最前線	株式会社ブルー・スターR&D 会長 柴野 佳英氏 代表取締役 柴野 美雪氏
	地域貢献	認定NPO 法人育て上げネット 理事長 工藤 啓氏